

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 杉原 富人》

2025 年
10 月号
No. 36

2025 年度「文学歴史散歩(バスツアー)」

高槻市の今城塚古墳公園・古代歴史館へ

日 時 11 月 14 日(金) 【参加費 6,000 円】

集合場所 図書館本館(岸城町)前＝8 時 20 分

南海岸和田駅東側(第 1 ゼミナール前)＝8 時 40 分

今城塚古墳



高槻市の今城塚古代歴史館、今城塚古墳公園（埴輪祭祀場と古墳）およびハニワ工場公園を訪問し、ユニークな「継体」墓と埴輪祭祀を实地見聞します。

また、この古墳に近接する【JT 生命誌研究館】も訪問・見学します。この研究館は、ゲノム(DNA)を切り口に生きものの多様性や進化を研究し、その研究成果を展示・公開しています。

【定員】 37 名（申し込み先着順）

【申し込み】 10 月 7 日(火)10 時より図書館本館で受け付けます。

直接または電話（072-422-2142）か、下記の QR コードから申し込んでください。



【行程】 図書館本館前発 8:30 ⇒ 南海岸和田駅東側(第 1 ゼミナール前)発 8:50 ⇒ JT 生命誌研究館着 10:30【同館見学約 1 時間】、同館発 11:30 ⇒ 水車（昼食予定）着 11:40～12:20 ⇒ 高槻市立今城塚歴史館着 12:25【同博物館見学；約 1 時間】⇒（徒歩）今城塚古墳公園【埴輪祭祀場および古墳内見学；約 1 時間】同発 14:30 ⇒ 高槻市立ハニワ工場公園着 14:40【同見学；約 0.5 時間】同発 15:20 ⇒ 吹田サービスエリア着 15:45/同発 16:15 ⇒ 南海岸和田駅着 17:35 ⇒ 図書館本館前着 17:55

※ キャンセル料＝11 月 11 日(火)～12 日(水)は参加費の 50%、13 日(木)以降は全額。



JT 生命誌研究館



今城塚歴史館



図書館友の会 各教室の公開講座のご案内

図書館友の会の各教室では、図書館との共催で公開講座を実施しています。会員以外の皆さんもぜひご参加ください。参加費はいずれも無料です。

【申し込み方法】 それぞれ受付開始日の10時より図書館本館で受け付けます。
直接または電話(072-422-2142)でお申し込みください。

文章教室

「あなたにも私にもできる文章表現」

～生活記録からフィクション、自分史から取材の方法まで！～

日時 10月25日(土) 13:30～16:00

場所 図書館本館3階 視聴覚室



講師：倉橋健一氏（詩人・文芸評論家）

聞き手：東野 岬氏

（倉橋健一文学私塾「集合体ペラゴス」世話人）

定員 30名(申込み先着順)
10月4日(土)より受付。



戯曲教室

シェイクスピア劇と四人の暴君

～クローディアスとマクベスとリアとリチャードと！～

講師 井之上 淳 氏（劇団五期会副代表、大阪芸術大学短期大学部非常勤講師）

日時 11月16日(日) 午後1時30分～4時

10月16日(木)より受付

定員 80名(申込み先着順)

場所 岸和田市立図書館本館(岸城町)、自習室(3階)

シェイクスピアの四大悲劇の内「ハムレット(クローディアス)」と「マクベス」と「リア王」。そして、希代の悪党と言われる「リチャード三世」。この4人の国王は、何故、暴君と化していったのか？それとも、彼らはサイコパスだったのか？そして、15世紀のイングランドでおきた薔薇戦争の頃を描いた戯曲「ヘンリー六世・三部作」のタイトルロール「ヘンリー六世」について。

◆参考図書：『暴君—シェイクスピアの政治学』

(スティーブン・グリーンブラット、河合祥一郎訳、岩波新書、2020年9月発行)



再発見教室

久米田寺と中世社会

～地域社会における寺社の役割～

講師：梶田 航平氏（歴史館いずみさの学芸員）

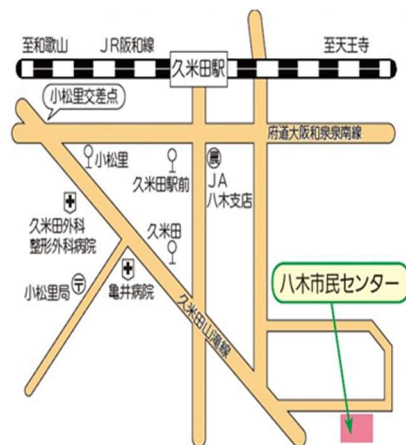
日時：11月29日(土) 11月5日(水) より受付

場所：八木市民センター(池尻町)2階 講座室1

日本の中世において、寺院は宗教施設であるのみならず、庄園の経営者や技術者などといった側面も持ち、様々な役割を果たしました。和泉国においては、久米田寺がそうした役割を果たした寺院の一つであるといえます。

同寺にはまとまった史料群が残されているのに加えて、他所にも同寺に関連する史料が残存しています。本講座では、そうした豊富な史料を見ることが、当時の和泉国の社会の中で寺社が果たした役割を見ていきます。

【協力】岸和田市立図書館・池尻町町会・久米田寺



俳句教室

俳句・発句・連句

—俳句は言葉遊びから始まった—

講師：広田 由貴子氏（編集者兼ライター）

日時 2026年1月17日(土) 午後1時30分～4時

2025年12月17日(水) より受付

場所 図書館本館 3階自習室 定員 50名

連句は五七五の句と七七の句を交互に詠んでつないでいく詩歌の一種で、第一句めを発句（ほっく）と呼びます。松尾芭蕉の「夏草や兵共がゆめの跡」のように、発句は単独で詠まれることもあり、明治時代に俳句と呼ばれるようになります。

一方で、複数の作者でつくる連句は文芸作品とはみなされなくなってしまいます。本講演では、芭蕉の連句作品にもふれながら、俳句に季語が詠み込まれるようになった経緯を含め、俳句の歴史をふり返ります。



第27回 図書館まつり

10月19日(日)に開催（図書館本館 10 時～）

「図書館友の会」は、例年通り、3 階自習室で「古本市」を担当します。どうぞご利用ください。

3 階視聴覚室では、「戯曲教室」メンバーによる朗読劇（シェイクスピア作『マクベス』）も実演します（10 時 30 分～11 時 30 分）。

午後 1 時からは落語倶楽部「笑泉会」による出前寄席（落語 6 席：約 2 時間）も開かれます。お楽しみに。

短歌教室の安井武昌さんが NHK 短歌教室に初入选されました。二千～三千首の中からの十首で、しかも二席に選ばれました。おめでとうございます。

品川で舟和のようかん買えましたあと少しだけお待ちください

地名の秘密

③ 一口(いもあらい)再考 (2)

京の地名 一口(いもあらい)の多様な語源説(2)

「イモ」は鋳物師（いもじ）に結び付くので、砂鉄に関する地名である等色々ある。久御山町史編纂委員会では編纂にあたり『久御山町史全 3 冊』（1986～1992 刊行）で「疱瘡洗い」説を採っていない。また伝承の域を出ない荒唐無稽的な説も少なくなく、また、問題と語源とが未整理な説が多い。このような多様な説が出るのは、一口を「イモアライ」と読むための、それにふさわしい理由が求められたからと思えてならない。『地名と風土 17』

「イモアライ」という地名も「一口」という表記も、それほど特殊な地名ではなく、特殊なのは、「一口」の表記が、「イモアライ」という読み結びついたことにある。上記語源説（前回参照）で、豊臣秀吉が出てくることが注目される。東一口村成立と豊臣秀吉が大きく関係するからだである。

○「イモアライ」＝「疱瘡洗い」説の「イモ」は天然痘（疱瘡・ほうそう）を指す言葉である。江戸時代には「イモカサ」とも呼ばれた。当時は種痘もなく、子どもにとって「疱瘡は見目定め、麻疹は命定め」として恐れられた。病後にあばたが残ることもあり、女の子を持つ親は特に心配した。それだけに、疱瘡除けの神様が各地で信仰を集めることになる。また、ホウソウを「疱瘡」と書く事から、江戸時代には瘡（皮膚病）の意味だけでない、梅毒（カサ）をも指すようになる。男女比が極端に不均等な江戸地においては、男の結婚のチャンスは少なく、岡場所等が繁盛し、多くの男性が罹患していたという。それだけに「疱瘡洗い」信仰は流行神にもなりやすかった。

「疱瘡洗い」説が広まるのに、太田姫稲荷神社（現東京都千代田区神田町駿河台）の縁起譚（はなし）が大きな役割を果たしたと考えられる。

地名から色々なことが判り面白い。次回も書く。

【参考資料】 『地名と風土(17)』 「特集地名研究の原点を京都で探る」

【文責】 文章教室 浦田榮二